

トヨタ・子どもとアーティストの出会い in 沖縄

Program

	2005年度	2006年度
<p>現地パートナー: トヨタ・子どもとアーティストの出会い in 沖縄実行委員会 (事務局:NPO法人前島アートセンター)</p> <p>『トヨタ・子どもとアーティストの出会い in 沖縄』は、那覇市内で活動するNPO法人前島アートセンターが中心に展開しました。</p> <p>都市化がすすむ那覇市中心部では、昨今の社会的状況から、子どもたちが外に出て遊ぶ機会が減り、学校が閉じられた状況になっています。そこで沖縄では、アーティストと子どもたちとの出会いを学内のみに留めず、地元の農連市場(野菜市場)や病院内学級など、幅広く子どもたちが日常を過ごす場所をワークショップ会場にし、フィールドワークなども含めた多彩なプログラムを展開しました。</p> <p>当プログラム終了後も、このプログラムに参加したアーティストと病院の先生が協働してワークショップを実施するなど、新たな活動に広がっています。</p>	<p>1. 農連市場ワークショップ 「とっとこハブ太郎」 那覇市農連市場 周辺地域の子どもたち42名(公募) 2005年11月26日[土]ー27日[日] アーティスト:パルコキノシタ(現代アート)</p> <p>2. 那覇市立真地小学校 3年生1クラス 32名 「自然はともだちだ(森・川・海岸・海) ~墨のオブジェ~」 2005年12月13日[火]、16日[金]、 2006年1月16日[月]、17日[火] アーティスト:伊江隆人(現代アート、書) 授業領域:総合的な学習の時間ほか</p>	<p>5. 那覇市立若狭小学校 「1年0組 わかさ発見伝」 5年生1クラス 32名 2006年9月26日ー11月21日 (発表は11月28日[火]、30日[木]) アーティスト:鄒素芬(現代アート)</p> <p>6. 琉球大学医学部附属病院・小児科病棟ほか 「WATARIDORI モールス信号展」 2006年10月4日[水]ー12月9日[水] 非公開ワークショップ:12月7日ー8日 公開展示:12月18日ー22日 アーティスト:照屋勇賢(現代アート)</p>
	<p>3. 沖縄県立森川養護学校/沖縄病院 「オモテナシProject」 2006年4月ー6月(発表会は5月27日[火]) アーティスト:ギマトモタツ(現代アート)</p>	<p>7. シンポジウム 「子どもの可能性を拓くアートのカ」 2007年3月10日[土] 久茂地公民館 来場者 100名 ワークショップ体験:ギマトモタツ パネルディスカッション・パネリスト: 百名伸之(沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児血液腫瘍科部長)、日比野克彦(アーティスト・現代アート) モデレーター: 吉田悦治(琉球大学教育学部助教授)</p>
	<p>4. フォーラム 「新学期、アートで見せるぞ! 新授業!! ~子どもの可能性を拓くアートのカ~」 2006年8月26日[土] 会場:前島アートセンター 来場者 35名</p>	

プログラム紹介

那覇市立若狭小学校

5年生1クラス 32名

2006年9月26日ー11月30日 計25日間

アーティスト: 雛 素芬 [すう・そふん]

(現代アート)

台湾出身の現代美術家、雛 素芬氏が外国人が多く住む沖縄という特性を活かしたワークショップを実施しました。「沖縄在住の外国人に伝えたい地域のこと、人、もの」をテーマにまちを探索。

ワークショップ最終日には、沖縄在住外国人で構成する期間限定の「1年0組」を設置。子どもたちが彼らと一緒にまちを歩き、無人販売所での野菜の買い方を教えたり、カルタやお面を用いて沖縄特有の食べ物・生き物を紹介するなど、自分たちの住む沖縄を知ってもらうためにさまざまな工夫を凝らしました。

子どもたちにとっても、また大人たちにとっても新たな視点で自分たちの住むまちの魅力を発見する機会になりました。

NPO法人前島アートセンター
〒902-0067 沖縄県那覇市安里385番地
栄町市場内 おきなわ時間美術館
TEL/FAX: 098-885-9371
E-mail: macinfo@maejimaac.net
URL: <http://maejimaac.net>



はじめに雛さんからワークショップで使うように子どもたちへクレヨンがプレゼントが。



期間限定外国人クラス「1年0組」の入学式。沖縄在住の様々な国からきた外国人が参加した。



地域の居酒屋で子どもたちが作成したカルタを使って沖縄特有の食べ物を紹介。



沖縄特有の果物の名前と食べ方を紹介する理科の授業。



地域の浜辺で沖縄伝統芸能のエイサーを踊る。

プログラム紹介

那覇市立真地小学校

「自然はともだちだ(森・川・海岸・海)
～墨のオブジェ～」

3年生1クラス 32名

2005年12月13日[火]、16日[金]、

2006年1月16日[月]、17日[火]

総合的な学習の時間ほか

アーティスト：伊江隆人(現代アート、書)

海辺で採取した植物(アダン)の根を石で叩きほぐして筆をつくることからワークショップがはじまりました。

書をつかった作品で知られるアーティスト・伊江隆人氏は、筆づくりのみならず、油を燃やしたススと豚の皮からニカワをとり、墨をつくる方法も伝授。

書の題材は、使われなくなって久しい沖縄方言から選びました。

口に筆をくわえたり、足で書いたりと思ひ思いの方法で大胆に書で表現する子どもたち。

最後に、ワラでつくった子どもの背丈ほどの巨大な筆と、アダンの筆をつかい、校庭に敷かれた100mの布にみんなで書を描くパフォーマンスを披露。表現の魅力を味わいました。

写真は、書を描いた布を旗にして校庭に立てているところ。



沖縄でのバリエーション 那覇市農連市場 院内学級など

沖縄では、学校という枠から離れ、子どもたちとアーティストが会う場を再定義し、新たな取り組みを実施しました。外で遊ぶ機会が少なくなった那覇市内中心部の子どもたちに向けた農連市場での

ワークショップや、小児病棟・院内学級、病弱な子のための養護学校など、外出がままならない子どもたちへのアウトリーチも積極的におこないました。

院内学級での活動展開——琉球大学医学部附属病院 院内学級

「WATARIDORI モールス信号展」

アーティスト：照屋勇賢(現代アート)

病院から出ることができない子どもたちと、世界をまたにかけて活躍する沖縄出身のアーティスト・照屋勇賢氏とが絵手紙やビデオレターをやりとりしながら作品を創作しました。モールス信号のように遠隔地にいるアーティストと作品をやり取りし、言葉ではない新しいコミュニケーション方法を探りました。

ワークショップ最終日は、どこにでもある紙袋から木を切り出した照屋氏の代表作



である「告知の森」をもとに、子どもたちが自由に作品を創作。どうしてその作品を創ったのか皆の前で発表し互いの作品についても感想を言い合いました。

ワークショップ中に照屋氏から「格好つけず、自分が思ったことを表現してください」とアドバイスがあり、多様な表現方法、考え方があっても良いという作者の想いを受け様々な作品が出来上がりました。

また、他の子どもの作品についても良い点を積極的に指摘するなどさまざまな表現方法、価値観を認め合う様子が見られました。

若狭小学校6年生児童

感想

・「1年0組わかさ発見伝」という自分が先生になって、外国人の生徒に若狭のよさを教えるという授業ができて、とてもいい経験ができたなあと思っていました。

・この授業をしていちばん変わったことは、大キライな図工を好きになれたことです。この授業で学んだことを他の授業でも生かしていけばいいなあと思います。

真地小学校3年生児童

感想

・僕は最初、アダンの木で筆なんてつくれるはずがないと思いながら、筆をつくっていると、筆らしくなってきたから、びっくりしました。すごいと思いました。ついでに、大きな布に字を書けたのもびっくりしました。

・私は筆作りをしているとき、「うまくできるかな」「ちゃんとできるかな」と思っていました。でも、ちょっとうまくできました。みんなで方言を勉強していると、いろんな言葉がいっぱいありました。だけど、すぐに、おぼえられました。

若狭小学校 教員

感想

・自分の好きなことや、自分にとって楽しいことを見つけている子はいいが、そうでない子どももたくさんいる。そういう子どもたちにとって自由に表現できるアートは、必要なものであり、魅力的なものだと思う。また、部活をしたり、自分の好きな楽器をひいたり、自分の好きなことを自由にやるということは、

いずれにせよ小学校教育における教育課程には含まれていない。そこで、小学校教育における図工の時間について、もっと真剣に見つめ直す時がきているのではないかと。アーティストがもっと学校教育に関わり、自由な自己表現の場が増えることを願う。